

かわむらこどもクリニック NEWS

Volume 4 No 2

3 1 号

平成8年 2月 1日

小児歯科ってどんなところ？

青葉区川平 ファミリー小児歯科
院長 太宰 徳夫

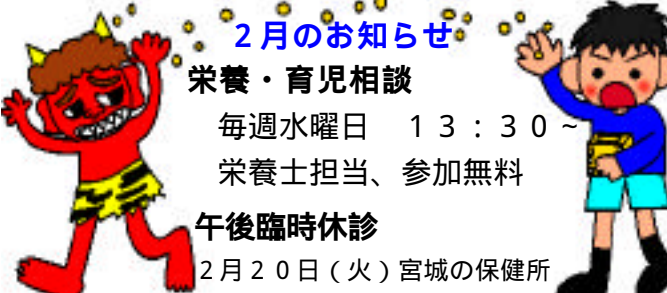
「小児歯科」って聞いたことがありますか？病院に内科や小児科があるように、歯科にも小児専門の小児歯科があるんです。大人の方でも「歯医者に行くくらいなら、死んだほうが」なんて言う人もいますよ。診察台に横になり大きな口、アーンなんて子供にとっては嫌なのは当たり前です。そんな子供たちとお付き合いする私たち小児歯科は、一般の歯科とはちょっと違うところに重点を置いています。

まず第一に、お口の健康管理システム。お子さんの歯は、萌え始めたときからすでに虫歯の危険にさらされています。さらに乳歯は発育期の成長にかかわるだけでなく、永久歯にも影響し一生の健康を左右するといっても過言ではありません。痛みだしてから治療で苦勞する前に定期的な健診、予防的な処置、家庭での毎日の歯磨き、おやつ指導を通してお子さんの健康管理のお手伝いをしようと考えています。

第二に、痛くない治療。小児の治療をする場合、苦痛・ストレスを最小限にすることが、治療をスムーズに行ううえで最も大事なことです。そこで不安や恐怖を取り除くため、具体的な説明やトレーニングをしながら治療を始めていきます。低濃度の笑気を吸ってもらい、リラックスした状態で痛みを感じにくくさせたり、麻酔も本人に気付かれることなく痛くないようにすることもできます。母親が、「歯の治療は痛いもの、怖いもの」という通念を変える必要があると思います。

治療費に関しては6歳未満の子供は、小児歯科に限らず、一般治療費の5割加算になります。

歯医者は、虫歯を治すところという考えがありますが、気軽に健診・相談にいらして下さい。



2月のお知らせ

栄養・育児相談

毎週水曜日 13:30~

栄養士担当、参加無料

午後臨時休診

2月20日(火)宮城の保健所
1歳6ヶ月健診のため

14:00~16:30は、休診となります。

当日は、健診予防接種はありません。

ホームページ開設

皆さん、インターネットって御存知ですか？一日に1回くらいテレビやラジオで話題になっているので、言葉を知っている人は多いと思います。

インターネットは、簡単に言えば、電話回線を使って、世界中のコンピュータと繋げるシステムのことです。自宅から、アメリカのホワイトハウスに繋いだり、いろいろな企業に繋ぐ事も出来ます。それが、コンピュータの画面に、本を見るように表現されるためホームページと呼ばれています。

当院では、患者さんとのコミュニケーションのために、新聞を発行してきました。新聞は、知らない人にはただのゴミとなってしまうのです。今情報が溢れています。情報は、必要な人以外はゴミと同じです。新聞の情報提供では、飽き足らず、今回かわむらこどもクリニックのホームページを作りました。

ホームページでは、病院案内だけでなく、「かわむらこどもクリニック ニュース」の記事や朝日ウイイルに掲載中の「小児科ミニ知識」を読むことができます。また、質問箱を設け医療上の相談も受け付けています。

現在のところ、小児科開業医では仙台で初めて、恐らく開業医でも初めてと思っています。もちろんコンピュータがなければ接続できませんが、会社からでも可能です。コンピュータ好きなお父さんがいれば伝えてあげてください。

URL:
<http://www.ifnet.or.jp/~kazu.k/>



読者の広場

12月、1月に喘息のお母さんの勉強会を開催したところ、合わせて60人もの参加を頂き有難うございました。12月は、当院待合室で開きましたが、窮屈だったため1月は、福祉市民センターをお借りして開催しました。アレルギーの話から始まり、喘息とは、薬の話や治療法含めて1時間30分、本当に熱心に聞いていただき有難うございました。今後も、できれば定期的に開催したいと思っています。聞きたい話題や、内容について、リクエストお願いします。勉強会に参加頂いたお母さんから投書を頂きましたので、掲載いたします。他にも要望がありましたので、待合室の洋服掛け、椅子のしたの籠について購入予定です。そして大樹くんのお母さん有難うございました。

以前にもお伝えしましたが、病院の新しい掲示システムを考えています。お子さんの絵や写真、作品などがありましたら、お寄せください。



木内さんからの投書(一部省略)

ぜんそくの勉強会、楽しく参加させていただきました。ほんの少しの知識しかありませんでしたので、直接先生のお話しとして説明していただき、大変得した気分のひとつときでした。

・貴重なお休みの時間なのにスタッフの皆さん全員が(薬剤師さんまで)フォローしてくださって、ごくろさまでした。(うるさい子供たちをみて下さり、ありがとうございました)

・ぜんそくで苦勞しているお母さんて、こんなにたくさんいるのね...と、なんとなく心強くなりました。

・飲み物、お菓子まで、何といたれりつくせりの心遣い！！

2人も子供がいると、ちょっとした講演会などに出かけるというのは、まず不可能とっておりましたので、そういう意味からも今回の勉強会は、私にとってどんなにありがたいものであったか.....涙。図々しくも子連れで参加し、勉強にもなりましたし、私自身の気分転換にもなったような気が致します。

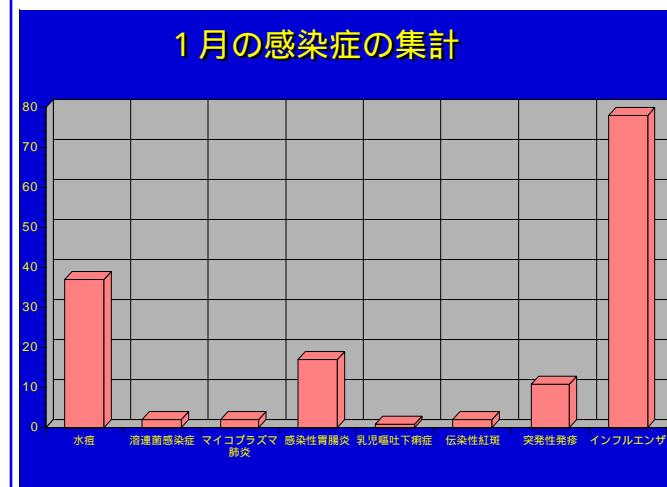
ありがとうございました。

準備も大変かと思いますが、今後再びこのような会が開かれますことを期待しております。

病気ひとくち知識

診察中「インフルエンザではありませんか」と聞かれます。この質問が医者泣かせだということを、皆さんは御存知でしょうか。さて、どうやって診断するのでしょうか。もちろん、喉に「インフルエンザ」と書いてあるわけではありません。発熱などの症状を総合して、診断するのです。明らかな流行や家族に同じような症状がいれば比較的簡単ですが、今日初めて熱がでただけという場合には、ほとんど確定診断は不可能です。

インフルエンザの症状は、ウイルスの型によって多少異なりますが、年長児や成人では急激な発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠などで始まり、やや遅れて鼻汁・咳嗽などがでてきます。発熱は39~40の高熱のことが多く、2~3日持続しますが、長くても5日以内で熱は下がります。他に嘔吐・腹痛・下痢などの症状が見られることがあります。しかし乳幼児では、年齢的な違いで、普通のかぜと区別できない場合もあります。確定診断のためには、ウイルスの分離や抗体の検査がありますが、結果がでるまでに時間がかかるため、役には立ちません。園児や学童が診



断を受けた場合は、出席停止となり、解熱後2日を経過するまで登校は出来なくなります。合併症としては、気管支炎・肺炎等があり、咳嗽の悪化や発熱の持続が特徴です。数は少ないのですが、痙攣や意識障害がみられる脳症は重症で、注意が必要です。

一般的なかぜと同様、予防のためには手洗いやうがいを励行し、規則正しい生活リズムを守るように心掛けましょう。

編集後記

新聞以外の仕事も多く、夜は留守がちになってしまいます。理事会、講演会など盛り沢山です。夜間にご迷惑をお掛けしますがご理解ください。ホームページなども含め、より以上の小児科を求めています。



目次に戻る

前の号

次の号